

リニア駅前広場交流施設（仮称）について

1 経緯

- ・駅前広場の維持管理、運営を担う管理事務所をリニア本線高架下に整備する想定であったが、令和6年度にリニア駅部工区の工期延期により高架下空間に整備することが困難になった。
- ・駅前広場整備については、令和5年度から国の交付金事業として事業着手しており、整備可能な区域は整備を進め、開業前から広場を活用していくことで、駅前広場の賑わい創出やリニア開業に向けた機運を醸成することを目的に、令和10年度から一部供用を開始する方針となった。
- ・一部供用に向けて、駅前広場の管理だけではなく、コミュニティ活動や賑わい創出、リニアに関する情報発信に寄与する施設として交流施設を整備することになり、令和7年度に基本設計を行った。

2 整備の目的

- ・飯田・リニア駅前空間デザインノートにある「地域と一体化した駅空間」の実現
- ・駅前広場との一体的な活用による賑わいの創出
- ・駅前広場への来訪者と地域住民との交流促進
- ・地域住民が日常的に集い、コミュニティの絆を高める場
- ・災害時には地域住民等の一時的な避難に対応
- ・駅前広場において実施する事業の企画運営や広場の維持管理

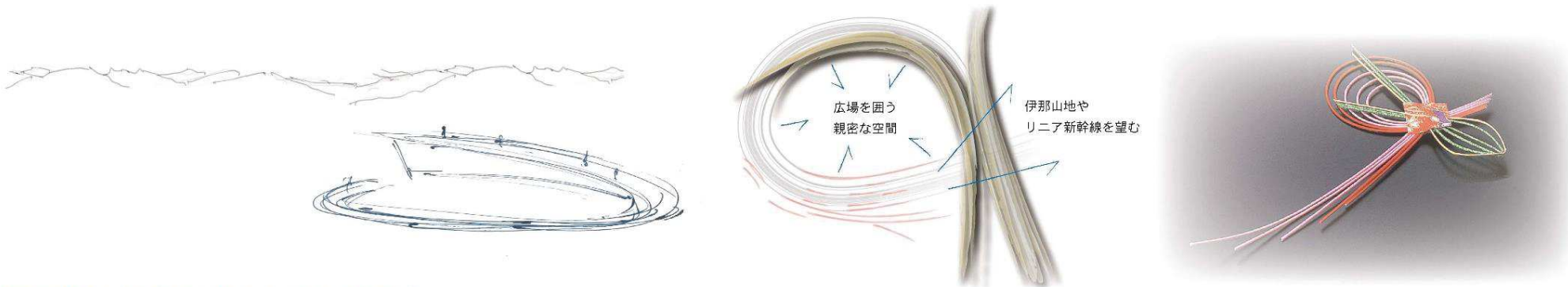
3 施設の機能

- ・イベントをはじめとする様々な用途で市民が利用できる多目的スペースとしての機能
- ・伊那谷の雄大な山並み、リニア中央新幹線などの眺望や憩いの場としての機能
- ・地域住民が日常的に集えるコミュニティ活動の拠点としての機能
- ・リニアに関する情報発信拠点としての機能
- ・駅前広場の利用者のトイレ、ベビールームなど公共的な機能
- ・駅前広場との一体的な活用による防災拠点としての機能
- ・駅前広場の運営・管理を担うための管理事務所としての機能

「結いの広場」を豊かにするコミュニティセンター

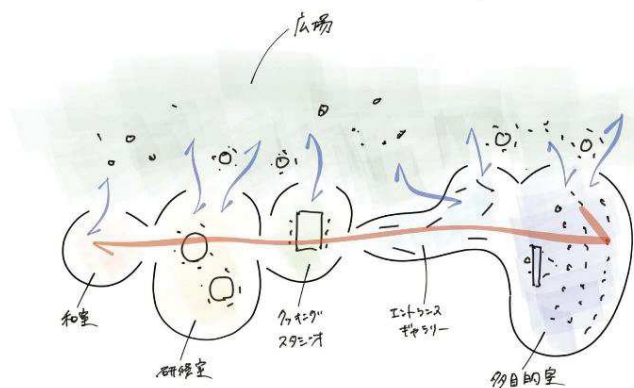
駅前広場の隅にただコミュニティセンターを計画するのではなく、コミュニティセンターにより駅前広場を豊かにし、広場との相乗効果でより魅力的な環境を整備することが重要となります。

そのためには「時を結う」「風景を結う」「暮らしを結う」「人々を結う」「地域を結う」といった結いの広場が目指してきた概念をコミュニティセンター整備においてもまた体现すること、すなわち地域の風景と結ばれ、広場に調和し地域の歴史文化を創造的に継承した独創的で美しい施設、そして地域住民やリニア駅前広場を訪れた多くの人々交流を促し、コミュニティ広場と一体となり賑わいを創出する施設を目指します。



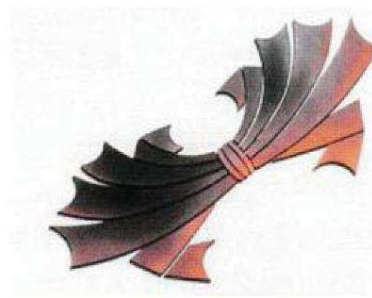
駅前広場と伊那谷の雄大な「風景を結う」

駅前広場の遊歩道が水引の結び目のように大きくコミュニティ広場を囲い、広場のアクティビティやイベントを眺める立ち見スペースになります。さらには伊那谷の雄大な山並みやリニア新幹線を眺める展望テラスとなります。空に向かって上り、周囲の景色や広場、リニア新幹線がシーケンシャルに展開することで、駅前広場を訪れた人々の空間体験は一層豊かなものになります。そして、展望テラスの下に広場管理棟とコミュニティセンターを整備することで、屋内屋外が一体となり人の出会いや賑わい（コミュニティ）を創出することを目指します。



「人を結う」空間の検討

コミュニティセンターの持つ機能が室ごとに完結することなく、また広場を含め利用者や活動が結びつけられ、交じり合う空間を構成します。



麻績会館の結窓斗レリーフ



麻績竹宵の会の法被デザイン



「人と人のつながりや絆」を意味する束ね罫斗文様

「結いの文化」と地域住民の助け合い

江戸時代より多くの大火を経験した飯田市において、活躍した座光寺村の「火消し」の象徴となった結罫斗。「火消し」は地域の行事などコミュニティの原動力でもあり、結罫斗には住民の団結や助け合いの意味も込められています。新たな施設もまた地域コミュニティの原動力なことが期待されます。

4 整備場所

- ・駅前広場（南側）コミュニティ広場内



※駅舎の形状・デザインは、JR東海に要望し、協議・検討していくためのイメージです。

コミュニティ広場を囲い、親密な賑わい空間を創出する。
来訪者は広場園路からつながる屋上テラスを歩くことで飯田らしい景観に触れることができる。

5 交流施設の概要

- (1) 構造 鉄筋コンクリート造（地上1階/一部地下1階）
- (2) 延床面積 669m²
- (3) 内容 多目的室、クッキングスタジオ、エントランスホール、
地域コミュニティセンター（北条地区コミュニティセンター）、管理事務室、トイレ、倉庫など

●多目的室などの貸出

多目的室は様々な用途で活用できる空間として利用する。

（会議・レクチャー、マルシェ、ポップアップストア、料理教室、ギャラリー、スタジオなど）

●北条コミュニティセンター機能

「地域住民が日常的に集い、コミュニティの絆を高める場」として、北条地区コミュニティセンター機能を交流施設内の一部に設置する。

北条地区は、リニア中央新幹線駅部区間により地区の中央が二分され、さらに駅前広場整備により、東側、西側、南側、北側と、地区が四方に分断された特殊な地域となり、同一地域でありながら地元住民の交流が大きく制限されることになった。北条地区の組合加入世帯は、リニア事業による多くの家屋移転により、大幅な減少となり、地域コミュニティの維持が大変な状況となっている。現在のコミュニティセンターの立地（西側）では、今後のコミュニティ活動に支障を来し、コミュニティ維持が困難な状況となることが懸念される。

飯田市におけるリニア本線、駅前広場整備事業は、多くの家屋の移転を伴った北条地区の多大なご負担とご協力のうえに成り立つ事業であり、地域コミュニティ分断の解消、災害時対応を目的に、地区の中央に位置する駅前広場内に建設する交流施設内の一部に北条コミュニティセンター機能を設置する。

※交流施設の具体的な用途や使用方法等については、現在、駅前広場活用PFの中核推進WG（管理・運営事業体設立準備会）において、「つかう目線」から検討を進めており、今年度行う実施設計に反映させる。

- (4) 事業費 約550,000千円(税込み)

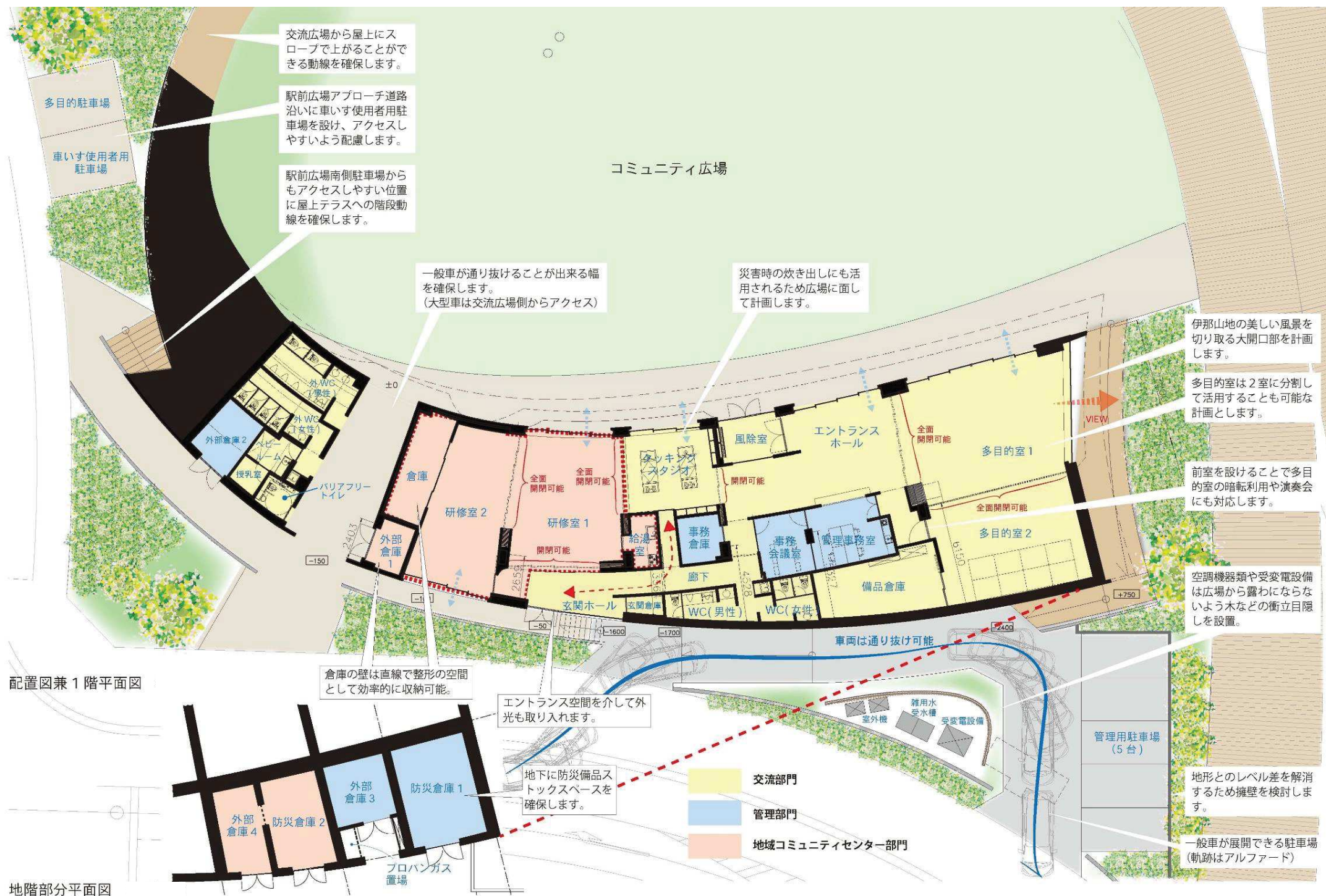
6 今後の予定

令和8年度 実施設計

令和9年度～ 建設工事

※駅前広場の一部供用に向けて整備を完了させる。

交流施設（仮称） 平面図





屋根伏図



外壁は駅前広場の木造キャノピーとの調和を考え、積極的に木質化。
意匠的な調和のみならず、環境負荷低減性能の向上も図る。



駅前広場の園路が渦巻くように伊那山地・南アルプスに向かってせり上がり、そのまま屋上が展望テラスとなる。



※駅舎の形状・デザインは、JR東海に要望し、協議・検討していくためのイメージです。

伊那山地を遠方に望みながら屋上のテラスを歩く。



※駅舎の形状・デザインは、JR東海に要望し、協議・検討していくためのイメージです。

屋上テラスの上を歩く。中段では駅舎とコミュニティ広場の様子を眺めることができる。



※駅舎の形状・デザインは、JR東海に要望し、協議・検討していくためのイメージです。

屋上テラスの上を歩く。展望テラスでは駅舎と伊那山地の風景、コミュニティ広場でのイベントなども望むことができる。



※駅舎の形状・デザインは、JR東海に要望し、協議・検討していくためのイメージです。

テラスに腰掛ける。駅舎やコミュニティ広場の様子、風越山を望むことができる。



※駅舎の形状・デザインは、JR東海に要望し、協議・検討していくためのイメージです。

イベントテラスは大きな平場スペースなのでコミュニティ広場と上手く使い分け、小規模で親密なイベントなども催すことができる。



※駅舎の形状・デザインは、JR東海に要望し、協議・検討していくためのイメージです。

コミュニティ広場でイベントが開催されているときは、屋上空間そのものが立ち見スペースとなる。
人形劇や野外演奏会開催時には広場と屋上から観客が囲う。



多目的室からコミュニティ広場を見る。サッシを開放し、内外一体利用することも可能。